

# 心の窓

No.128

平成 22 年 4 月 30 日 (金)

〒945 - 0833 柏崎市若葉町 2 - 31

TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

## 新年度スタートにあたって

それぞれの学校でも新学期を迎え、忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

柏崎市立教育センター教育相談班は、市町村立の教育センターとしては県内でも類を見ないほどの優れた体制を持ち、かつ専門的な取り組みを行っていると自負しています。

代表的な点を幾つか挙げますと、

- ① 適応指導教室(ふれあいルーム)、カウンセリングルーム、学校訪問相談、電話相談など、教育相談に関するセクションが一同に集まっていること、
- ② 臨床心理士、学校心理士、教育カウンセラーなど、教育相談に関する専門資格を有する職員が揃っていること、
- ③ (医療・福祉の)関係機関や関係課との積極的な連携を取っていること、
- ④ 特別支援教育に関しても、園や学校への指導・助言・相談に応じたり、就学相談を行ったりしている、などが挙げられます。

22年度も、子ども、保護者、教員からの様々な依頼・要望に応えられるよう、10名の職員がチーム一丸となって頑張ります。いじめ、不登校、発達障害、子どものトラウマなど、子どもの心の問題についてのご相談は、教育センターの教育相談をどうぞご利用ください。

< 転出・転入(退職・採用)職員のおしらせ >

退職 : 矢嶋 信昭(ふれあいルーム指導員)

採用 : 松井 理納(ふれあいルーム指導員)

(教育相談係長 小林 東)



## 教育相談班は、こんなところで

### 《カウンセリングルーム》

カウンセリングルームでは、市内に住む小中学生とその保護者、および教職員の方々を対象に、子どもたちに関する様々な相談をお受けしています。初回相談後、子どもたちの状態や保護者の希望により、主に、個別カウンセリング、心理検査、ソーシャルスキルトレーニング、家庭訪問相談、学校へのコンサルテーション、専門機関の紹介などといったサポートを実施しています。

相談は予約制で、電話予約受付時間は、カウンセリングルーム**32-3397**(直通)・月曜～金曜日の8時30分から17時までです。なお、電話に出られない時は留守番電話になっています。「お名前」「ご用件」「電話番号」を入れてください。こちらから折り返しお電話をいたします。

子どもの悩みや問題に気づいたら、カウンセリングルームへご相談ください。

### 《ふれあいルーム》 ～はじめの一步をふみだそう！～

ふれあいルームは、様々な体験活動や教科学習の支援を通して、学校への復帰を援助しています。子どもたちには、いきいきと元気になってほしい！そして、自分なりの目標を持ってふれあいルームに通級し、有意義な時間を過ごしてほしいと願っています。

今年度は学校、カウンセリングルーム、関係機関との連携をさらに強化していく方針です。5月7日の学級担任連絡会やフィードバックシートによる定期情報交換のみならず、子どもたちの復帰のタイミングを逃さないように積極的に協議の場を持ち、共通理解をはかりながら、通級生、保護者と足なみをそろえて「一步をふみだす」支援をしていきたいと考えています。



昨年度は、さつまいもを作りました。今年は・・・。

### 《学校訪問相談》

今年度の定期訪問も、昨年度と同様に、小、中学校それぞれ1回ずつを予定しています。必要に応じて、要請訪問、同道訪問も行います(教育センターに関わっている子どもたちに重点的に対応)。

また、該当児童生徒の成長と状況の改善につなげていくために、学校や関係機関と連携して支援方法などを検討する「**学校サポート協議会**」を実施しています。

各学校の実情に応じて、相談員をぜひご活用ください。

### 《教育電話相談》

教育センターでは、教育電話相談を行っています。専用電話**22-4115**にて、児童生徒とその家庭におけるあらゆる相談について、匿名で応じています。保護者からの相談の他、児童生徒本人からの相談も受けています。受付時間は平日の9時から17時までです。一人で悩まず、ぜひ、ご相談ください。お電話をお待ちしております。



### 職員紹介

今年度の教育相談班は、この10人の職員で運営してまいります。新しい顔も加わりました。

1年間、どうぞよろしく  
お願いいたします。



係長(カウンセラー)  
小林 東

教育センター勤務14年目と長くなりましたが、マナーに陥らないよう、気分一新して務めていきたいと思っています。

信じて 信じて 誰の命もまた誰かを輝かすための光 / 桜井和寿



相談員  
本間 良子

今年度、5年目となります。皆さんの思いを大切に受けとめ、子どもさんにとって何が出来るか、一緒に取り組んでまいりたいと思います。



相談員  
長谷川 大

教育センター4年目になります。いつまでもフレッシュな気持ちを忘れず、明るく・楽しく・元気に仕事をしながら、皆様のお役に立てればと思っています。



相談員  
栗脇 瞳

大変お世話になっております。相談員として、4年目になりました。子どもたちや保護者の思いを大切に、皆様がより安心感と希望を持って毎日を過ごせますよう、務めていきたいと思っています。



ふれあいルーム  
指導員  
池田 恵里子

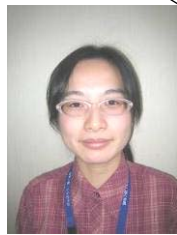
今年で2年目になります。昨年は、「本当に、こんな緩い対応でいいのかな？」と悩み続けました。しかし、今は、子どもには自分で自分の道を切り開くエネルギーがあると思っています。その力を信じて頑張ります。

はじめまして。今年度から、ふれあいルームへ来ました。ふれあいの様々なことを通級生の子どもたちと一緒に経験しながら、共に成長できたらいいなと思います。また、子どもたちがゆったりと笑顔で過ごせる雰囲気づくりを目指したいです。



ふれあいルーム  
指導員  
寺澤 朋法

今年もふれあいルームが始まりました。明るく楽しく、ときどき真面目に、通級生たちがどんどん元気を蓄えていけるように頑張りたいと思います。「きっかけは、ふれあいルーム」そうなれたら素敵です。



ふれあいルーム  
指導員  
松井 理納



相談員  
寺瀬 富美子

生活の場そのものの中で困難事例に奮闘されている教職員の皆様に敬意を表します。学校訪問やサポート協議会(ケース会議)で連携させていただきます。



相談員  
笠木 典子

学校や関係機関との連携を一層強め、実効ある取組を目指したいと思います。現場の教職員の皆様方の努力に感謝しております。



主査  
長谷川 裕美

ここ教育センターで、2年目の春を迎えました。電話相談や就学相談等を通して、子どもたちの健やかな成長、また、市内の特別支援教育の一層の発展に、少しでもお役に立ちたいと思います。



## 教育相談班 5月の予定

### 《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ(SST)

14日(金)16:00～17:00 小学生Aグループ

16:30～17:30 小学生Cグループ

21日(金)16:30～17:30 小学生Bグループ

28日(金)18:30～20:00 中学生第1グループ



### 《ふれあいルーム》

7日(金) 学級担任連絡会

13日(木) サイクリング

※雨天の場合は14日(金)

27日(木) 春の登山

※雨天の場合は28日(金)

### 《学校訪問》(4月19日現在の予定)

6日(木)15:30～ 比角小学校

7日(金)15:30～ 鯨波小学校

11日(火)10:30～ 第三中学校

15:30～ 柏崎小学校

12日(水)15:30～ 大洲小学校

13日(木)15:30～ 米山小学校

14日(金)15:30～ 剣野小学校

18日(火)10:30～ 南中学校

19日(水)15:00～ 野田小学校

16:00～ 新道小学校

21日(金)15:30～ 高浜小学校

25日(火)10:30～ 鏡が沖中学校

26日(水)15:30～ 枇杷島小学校

28日(金)15:30～ 半田小学校

# 心の窓 No.129

平成 22 年 5 月 26 日 (水)

〒945 - 0833 柏崎市若葉町 2 - 31

TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

## ふれあいルームから

～自分が育てたいものを～



教育センターの一角に畑があります。昨年度まではさつまいもの苗を植えていました。昨年の秋には、落ち葉を集めて焼きいもにしたり、さつまいもを使った料理を自分たちで調べ、調理したものをセンター職員から試食してもらい、コメントをもらったりしました。

今年は、決められたものを作るのではなく、自分で食べたい野菜を育ててみることにチャレンジしています。広告を見て育てたい苗を考え、ホームセンターへ行き、300円以内で好きな苗を買ってきて、自分で植える体験をしました。

果たして、収穫まで無事にたどりつくことができるでしょうか…。



けっこう、力が  
いるんだなあ!!

## カウンセリングルームから

### 研修報告

### 『人づきあいが苦手な頑固 うちの子って大丈夫？』

～自閉傾向を持つ子どもたちのために～

柏崎地域心のケアセンター主催による表題の研修会が、平成 22 年 5 月 8 日(土)午後、ワークプラザ柏崎にて行われました。柏崎厚生病院精神科医師の結城麻奈先生が講演をされ、保護者、教員、医療・福祉の専門機関職員など約 60 名の参加者がありました。

結城先生は講演の冒頭から「自閉傾向を持った子どもの子育てをしている親は、難しい子育てに挑戦している方であり、うまくいかなくて当たり前。みんなで助け合い、知恵を出し合い、励ましあい、労わりあい、慰めあいながら、時に休みながら、あきらめずに前進していきましょう。」と当事者保護者へのメッセージを語りました。その他、「普通を必要以上に目指さない。」「子どものものの見方や感じ方、受け止め方などの脳の特徴を理解すると本人も周りも楽になる。」「障害を中心におかない。障害の有無よりもその子の幸せが重要。」など、支援者にとっても示唆に富んだお話をされました。専門医から直にお話が聞ける貴重な機会でした。



## 講演案内

## 『育てにくさ、しつけづらさのある子どもたち～その理解と対応～』

- (1) 主催：新道小学校
  - (2) 日時：平成22年6月25日(金) 15:00～16:30
  - (3) 会場：新道小学校
  - (4) 講演内容：落ち着きの無い子、集中力に欠ける子、集団行動が取りづらい子、など、大人が育てにくさやしつけづらさを感じる子どもたちは珍しくありません。家庭や学校ではどんな配慮や支援をしてあげたらよいのでしょうか。臨床心理士のカウンセラーが具体的に説明します。
  - (5) 講師：小林 東（市立教育センター カウンセラー）
  - (6) 参加申込先：希望者は当日直接新道小学校にお越しください。
- ※ この講演会は、新道小学校のご厚意により、新道小学校保護者以外の一般参加希望者にもご案内いたします。

## 教育相談班 6月の予定

### 《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ(SST)

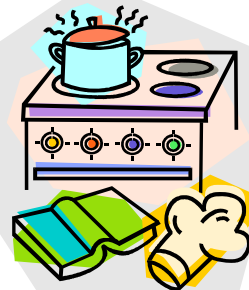
- 4日(金) 18:30～20:00 中学生第2グループ
- 11日(金) 16:00～17:00 小学生Aグループ
- 16:30～17:30 小学生Cグループ
- 18日(金) 16:30～17:30 小学生Bグループ
- 25日(金) 18:30～20:00 中学生第1グループ

### 《ふれあいルーム》

- 2日(水)～4日(金) 保護者面談
- 10日(木) 笹だんご作り
- 15日(火) えんま市見学

### 《学校訪問》(5月26日現在の予定)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1日(火) 10:30～東中学校   | 18日(金) 14:05～日吉小学校  |
| 2日(水) 15:30～北鯖石小学校 | 21日(月) 15:30～南鯖石小学校 |
| 3日(木) 15:30～荒浜小学校  | 22日(火) 10:30～第五中学校  |
| 4日(金) 15:30～田尻小学校  | 23日(水) 15:30～鯖石小学校  |
| 11日(金) 14:00～西山中学校 | 24日(木) 10:30～松浜中学校  |
| 15:30～二田小学校        | 29日(火) 10:30～北条中学校  |
| 15日(火) 10:30～瑞穂中学校 | 30日(水) 15:30～北条小学校  |
| 16日(水) 15:30～槇原小学校 |                     |



### 《その他の予定》

- 2日(水) 第1回特別支援教育研修会
- 7日(月)～7月2日(金) 上越教育大学大学院生臨床実習
- 9日(水) 就学相談(教育センター)
- 16日(水) 就学相談(元気館)
- 23日(水) 就学相談(教育センター)

### \*お知らせ\*

今年度も、5月から、柏崎市就学指導委員会が就学相談を行っています。ご質問等がありましたら、柏崎市教育委員会学校教育課または教育センターまでお願いします。

# 心の窓

No.130

平成 22 年 6 月 25 日 (金)

〒945 - 0833 柏崎市若葉町 2 - 31

TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

## ふれあいルームから

～海へ・山へ行ってきました～

ふれあいルームでは、海へ遠足に、山へ登山に、と体験活動を行いました。

\*5月18日(火)



“つり遠足”へ行ってきました。当日はとても天気の良い日になり、中央海岸まで約 30 分歩いていきました。漁港では、みんなで釣りをしました。海辺では、砂堀をしました。そして、潮風を感じながらのおいしいお昼ごはんを食べることもできました。

最後の最後まで、つり竿の先を見つめながら魚を待っていたのですが…釣り上げることはできませんでした。ところが、隣で釣りをしていたおじさんが「これ、いるかい？」と鱈(さわら)を1匹くださいました。

みんなであったかい気持ちになりました。ありがとうございます。

\*5月31日(月)

天候が安定しないため日程を延期しましたが、恒例の“八石登山”を無事に終えることができました。みんなで同じ頂上を目指して、一体感を味わいながら登山ができました。

頂上では、ハンモックやブランコで遊んだり、木登りをしたりと充実した時間を過ごすことができました。下山は、足を震わせながらも…みんなで掛け声を合わせながら帰ってきました。それぞれが、達成感と充実感を味わうことができました。

(文責 松井 理納)



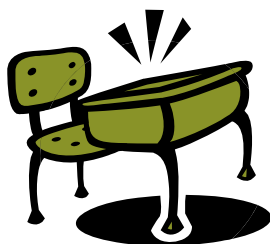
## カウンセリングルームから

～SST(ソーシャルスキルトレーニング)～

子どもが心理社会的な成長とともに自己を確立していくためには、年齢に見合った対人関係の体験学習をすることが不可欠とされています。対人関係は、情緒の安定を図るだけでなく、「自分」というイメージを形成し、将来社会人として生

きていく力につながる重要な役割を担います。

カウンセリングルームでは、学校生活や日常生活において、集団適応などに困難を抱えやすい小中学生を中心に「いろいろ体験グループ」(SST=ソーシャルスキルトレーニング)を実施しています。ソーシャル



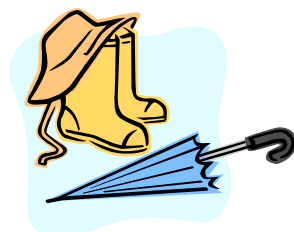
キルとは、対人関係を営む知識と技術のことで、体験学習によって向上するものと捉えられています。今年度は、小学生が3グループ、中学生が2グループの実施で、少人数による課題活動の体験をとおし、ルールを意識した活動や自分の行動・感情をコントロールする力、状況に応じた行動パターンの習得などをねらいとして取り組んでいます。また、スタッフの関わりや課題の達成を通じて自己肯定感を高めることも意識して実施しています。楽しい交流を前提に取り組んでいます。また、人と関わる喜びを体得することで仲間意識も生まれ、積極的に関わる姿勢が見られています。

現在、市内の小中学校の中には、特別支援学級の中で、または、通常学級の中でなど、それぞれのニーズに合わせた独自の形で SST に取り組んでいる学校があります。対人関係は、全ての子どもたちに必要とされる能力であり、子どもたちの日常的な学校生活や社会活動の中で SST の視点と取り組みが広がることを願います。

「いろいろ体験グループ」への問い合わせ、見学の申し込み、参考資料の照会は、カウンセリングルーム 電話32-3397までご連絡ください。 (文責 本間 良子)



## ただ今実習中です



6月7日(月)から、上越教育大学大学院生3人が当センターで臨床心理実習を行っています。7月2日(金)までの予定で、ふれあいルームでの実習やいろいろ体験グループ(SST)の企画立案と実施、また、相談員の学校訪問にも同行し、各学校でお話を聞かせていただいております。お世話になりますが、よろしく願いいたします。

毎日ふれあいルームで子どもたちに会うのがとても楽しみです。子どもたちとたくさんふれあって、楽しい思い出を作ったり、先生方からたくさんのことを学んだりして、充実した4週間にしたいと思います。よろしく願いいたします。

(富田 賢一)

ふれあいルームの子どもたちと楽しく関わらせていただいています。短い間ですが、一日一日を大切にして、たくさんのごことを勉強していきたいと思っています。よろしく願いいたします。

(大久保 美里)

ふれあいルームでは、毎回子どもたちから元気をもらっています。一緒に楽しく遊んだり、勉強したりして、もっともっと仲良くなりたいです。わずかな期間ですが、どうぞよろしく願いいたします。 (塚野 聡仁)





## 教育相談班 7月の予定

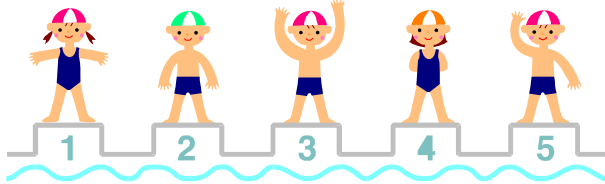
### 《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ(SST)

- 2日(金) 18:30～20:00 中学生第2グループ
- 9日(金) 16:00～17:00 小学生Aグループ  
16:30～17:30 小学生Cグループ
- 16日(金) 16:30～17:30 小学生Bグループ
- 23日(金) 18:30～20:00 中学生第1グループ
- 30日(金) 18:30～20:00 中学生第2グループ

### 《学校訪問》

- 2日(金) 14:00～高柳中学校  
15:15～高柳小学校
- 6日(火) 15:30～中通小学校
- 7日(水) 15:30～内郷小学校
- 8日(木) 10:30～第五中学校
- 14日(水) 15:30～門出小学校
- 16日(金) 15:30～石地小学校



### 《ふれあいルーム》

- 6日(火) 水泳教室(柏崎アクアパーク)
- 8日(木) バス課外活動(上越方面)
- 14日(水) ソフィアセンターへ
- 22日(木) 夏休み前通級終了日

### 《その他の予定》

- 1日(木) 就学指導委員会 園巡回訪問(剣野保育園、枇杷島保育園)
- 2日(金) 就学指導委員会 園巡回訪問(はらまち保育園、にしやま保育園)
- 8日(木) 就学指導委員会 園巡回訪問(西部保育園、白百合幼稚園)
- 9日(金) 就学指導委員会 園巡回訪問(比角保育園、東部保育園)
- 12日(月) 就学指導委員会 園巡回訪問(高田保育園)
- 13日(火) 就学指導委員会 園巡回訪問(安田保育園)
- 14日(水) 就学相談(元気館)
- 29日(木) 親と支援者のための療育講座  
「自閉症スペクトラム講座 in かしわざき」(エネルギーホール)



### \* 柏崎市の就学相談について \*

柏崎市には、特別な教育的支援を必要とするお子さんの適正な就学を図るため、就学指導委員会が設置されています。委員会では、幼児部会、小中部会、通級部会の各部会に分かれて活動しており、保護者の依頼を受け、お子さんの障がいの種類や程度に応じた望ましい教育環境等について、専門的な見地から総合的に判断しています。このうち幼児部会では、5月から保護者との面談を開始し、継続相談にあたっています。6月からは、対象幼児の在籍する保育園・幼稚園を訪問し、園での活動の様子を観察させていただいております。7月も引き続き各園を訪問させていただく予定です。よろしくお願いいたします。

また、今後も引き続き申込を受け付けますので、詳しくは、柏崎市教育委員会学校教育課(TEL 21-2366) または 教育センター(TEL 23-4591) までお問い合わせください。

## 学校訪問相談



学校訪問相談では、主に、下記の相談を実施しています。

### 1 定期学校訪問相談

年1回、訪問者2人体制で実施しています。今年度の定期学校訪問相談は終了いたしました。

#### ○ 主な相談内容

相談内容と件数の割合は下記の通りです。

(柏崎市立全小・中学校)

相談内容	特別支援 (通常学級在籍)	不登校傾向 不登校	特別支援 (特支学級在籍)	生徒指導	学級経営 学習指導	その他
割合	57%	18%	11%	7%	5%	2%

通常学級に在籍する特別支援を要する児童生徒の相談件数の割合が半数を超え、また、昨年度(38%)に比べ、増えています。対応に苦慮している学校や学級の実態が明らかになりました。特性に起因する不登校傾向・不登校状態が見られる場合もあります。

今後、全ての教職員が、発達障害特性についての理解を深め、その対応策を考えて校内体制を整え、支援することが課題となってきます。夏休み中の相談も予定されています。

### 2 要請学校訪問相談

今後、要請学校訪問相談を実施していきます。学級経営などは4・5・6月が勝負です。早めの気づきや対応が重要となります。今年度も担任自ら、または校長・養護教諭の勧めで、3件相談を受けました。こちらから連絡をさせていただく場合もあります。話すことにより共に考え、教職員の皆様の心が軽くなり、少しでも、元気になれば幸いです。

### 3 学校サポート協議会

児童生徒にかかわるケースを学校職員、教育センター担当カウンセラー・相談員、元気館(子ども課・元気支援課)職員、福祉課職員等で協議します。情報を共有し、それぞれが今後の支援内容や具体策を検討し合っています。今年度もすでに6件実施しました。また、8月中の協議会も何件か予定されているところです。

**お電話等で連絡いただければ、訪問させていただきます。(派遣申請等の書類は不要です。)**

(文責 笠木 典子)

☎ **23-4591 教育センター**  
(訪問相談担当：笠木・寺瀬)

# ふれあいルームから

～えんま市に行ってきました～



6月16日にふれあいルームでえんま市見学に出かけました。あいにくの雨でしたが、子どもたちにとっては、一年に一度の大イベントです。傘をさしてみんな教育センターから歩いていきました。集合場所と時間を決めて、いくつかのグループに分かれて散策しました。見学前の事前の注意事項で「クジをやりすぎない」というものが通級生から出されました。実際の通級生の様子を見ても、お金の使い方がとても堅実で、まず全部のお店を見てまわって、ここぞという所で買っていました。ふれあいルームには「しっかり者」が多いです。



えんま市のようにみんなが楽しみにしている地域の行事というのは、子どもたちにとっても地域の方と触れ合う良い機会ですし、社会勉強になります。普段は人ごみが苦手なふれあいルームの通級生たちも、お祭りの魔力にかかって、雨の中を元気に楽しんで来ました。

(文責 ふれあいルーム 寺澤 朋法)

# カウンセリングルームから

「子どものトラウマと心のケア」



今回は「子どものトラウマと心のケア」について、先日行われました武蔵野大学の藤森和美先生のご講演から、ポイントを幾つか紹介させていただきます。

トラウマとは、自分自身が重症を負いそうになったり、実際に重症を負ったり、あるいは他人の死や重症を負うような場面を目撃したりするなどのショックな体験をすることで受ける心の傷を指します。柏崎市でも、中越地震・中越沖地震と大きなショックを受ける体験がありました。このような自然災害のほか、事故・いじめ・暴力なども、トラウマとなるような出来事として挙げられます。

一般にトラウマ体験をした子どものストレス反応として、頭痛や腹痛などの「身体反応」、罪悪感や無力感などの「感情反応」、大人のそばから離れないなどの「退行現象(赤ちゃん返り)」が見られることがあります。

さて、トラウマ体験をした子どもへの心のケアのポイントは、大きく3つあります。①「安心・安全の保障」(周囲の大人が落ち着き、可能な限り早く日常生活のペースに戻すなど)②「正しい知識と対処法」(予測される反応と対処法について日頃からよく理解しておくなど)③「子どもの主体性とペースが守られること」(子どもが話したいことを聴き、話したくないことはしつこく聞きだそうとしないなど)です。

例えば災害や事故などのように、子どもがトラウマ体験をするようなとき、周囲の大人にも同様の辛い体験があり、精神的ゆとりがないことが多いと思われます。しかし、そのようなときこそ、子どもからのSOSのサインを安易にわがままや怠けと捉える危険性が増します。この危険性を忘れずに、子どもと向き合う時間をとり、適切な対応をしたいものです。

(文責 栗脇 瞳)

東京都教育委員会の取組を紹介します！

## ＜東京都立特別支援学校清掃技能検定～職業教育の充実を目指して～＞

東京都教育委員会によると、特別支援学校卒業生は、就労後、多くの場合、主な業務の他に清掃業務に取り組んでいるという調査結果があります。そこで、都教育委員会では、平成19年度から国家試験に準じた基準で特別支援学校用の清掃技能検定を実施しています（ただし、公的な資格を与えるものではありません。）。検定では、定められたマニュアル通りにテーブル拭きや床清掃、窓清掃を行い、専門の講師により判定が行われます。判定後には、相当の級の認定書が生徒に授与されます。この検定制度は、生徒のスキルの獲得状況を確認できるだけでなく、次のような視点でも有効です。

- ☆生徒…検定合格によって自信が付き、次の目標が明確になって意欲が向上する。
- ☆教師…次の目標に向けて、指導の組立てや指導法の改善がしやすい。
- ☆保護者…学校と連携した家庭での支援がしやすくなる。
- ☆就労先…生徒の実力の客観的な把握、適した業務の工夫が容易になる。



障害をもつお子さんの清掃指導においては、各学校でもいろいろと工夫され、ご苦労されていることと思います。この東京都の取組みは、知的障害特別支援学校の生徒を対象としたものですが、各学校での日常の指導においても生かせる内容であり、また、お子さんの将来の社会参加に向けても役立つ内容であると思います。詳しいテキストや内容は都教育委員会のHPにて閲覧できます。難易度の高いものもありますが、興味のある方はぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

(文責 長谷川 裕美)

### 教育相談班 8月の予定



#### ＜学校訪問＞

9日(月) 9:30～ 鏡が沖中

#### ＜ふれあいルーム＞

8日(日) 卒業生親睦会(国民休養地)  
27日(金) 通級開始日

#### ＜カウンセリングルーム＞

いろいろ体験グループ(SST)

6日(金) 16:00～17:00 小学生Aグループ  
16:30～17:30 小学生Cグループ  
20日(金) 16:30～17:30 小学生Bグループ  
27日(金) 18:30～20:00 中学生第1グループ

#### ＜その他の予定＞

4日(水) 13:00～ 就学相談(教育センター)  
17日(火) 13:30～15:00 子どもの虐待防止講演会(柏崎エネルギーホール)  
19日(木) 11:50～16:45 上越地区特別支援教育研究大会 柏崎・刈羽大会  
(刈羽村生涯学習センター「ラピカ」・農村環境改善センター)

# 心の窓 No.132

平成 22 年 8 月 26 日 (木)  
〒945 - 0833 柏崎市若葉町 2 - 31  
TEL 0257(23)4591 (代表)  
FAX 0257(23)4610

## ふれあいルームから ～取り戻そう！！自信と勇気を～

ふれあいルームの活動で、大切にしているのが体験活動です。ふれあいルームでは、7月と2月の2回バスに乗って活動場所を移動し、体験する活動を計画しています。

行く場所が前の年と重ならないよう、体験の内容が現通級生に合うかどうかを検討しながら計画しています。

今年は、上越方面に行きました。水族博物館では、まず、裏側(しくみ)を見せてもらい、その後、普通通りの見学をしました。すると、しくみを知ることで、今までとは違った水族館の楽しみ方ができるのです。今回は裏側を見ることで「見方を変えると見えてくるものが変わる！！」ということに気付いて欲しく計画したのですが…。

もう一つの目玉が、BMXの世界大会も開催される会場でBMX体験をすることです。膝・肘当て・ヘルメットを着用し、大会用の自転車に乗り、実際のコースを選手になった気分で走る模擬体験です。一見ただけで、身震いするようなコースです。この体験後「やっぱりやって見ないと分からないものですね！！俺やってよかったです。」とある通級生が清々しい表情で話していました。新しいことへの挑戦には、不安はつき物ですが回数を重ねることで不安が楽しみへと変わり、自信と勇気になっていくことを目指して、ふれあいルームは今年もこんな活動をしています。



(文責 ふれあいルーム 池田 恵里子)



## カウンセリングルームから ～発達障害の二次障害～

発達障害のある子どもの中には、生まれもった特性と環境との相互作用の悪循環から、不登校やひきこもり、非行、抑うつなど二次的な障害が生じるケースが少なくありません。

発達障害特有の社会的なふるまい、例えば ADHD の乱暴さや唐突さ、PDD のこだわりや孤立などは、しばしば周囲の大人や子どもとの間に、叱る、養育から部分的であるにしろ手を引く、攻撃するなどの絶え間ない否定的反応を引き起こしがちになります。そのような周囲の反応は、その子どもの自信を失わせ、自尊心を低下させ、無力感や空虚感、あるいは不安や気分の落ち込みを引き起こし、漠然とした不満や怒りが蓄積していくことになります。このような状態は、反抗、暴力、ひきこもりなどのネガティブな社会行動を誘発し、増加させます。こうした子どものネガティブな行動が増加すれば、周囲の怒りはさらに刺激されることになり、その子どもを叱ることが増えると同時に、保護者、あるいは教師としての自身のふるまいへの罪悪感や無力感、そう感じさせる問題の子

どもを避ける姿勢が増加していきます。このようにして高まっていく周囲との緊迫した関係性は、スタートラインにあった本来もっている社会的なふるまいの問題を、よりいっそう増幅した形で再スタートさせます。そうして、このサイクルが繰り返され、問題行動がエスカレートする悪循環の閉回路に入り込んでいきます。

子どもの特性を周囲が理解しながら、「だれでも生じうるもの」として二次障害を認知し、環境と子どもの相互作用に調整や修正の必要があることを、関係者の間で共有することが大切かと思えます。

(参考: 齊藤万比古「発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート」学研)

(文責 カウンセリングルーム 長谷川 大)

### 〈長期目標・短期目標〉

平成 20 年、21 年に改訂された学習指導要領では、特別支援学校においては、すべての幼児児童生徒に個別の指導計画（一人一人の実態に応じた学校における各教科等の指導の計画）、個別の教育支援計画（中長期的に目標を設定し、関係機関の連携の下に一人一人の必要な支援を実施するための計画）を作成することを義務付けました。また、幼稚園、小・中・高等学校においては、義務付けられてはいないものの、「個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成するなどして、個別的な教育的ニーズに応じた指導の工夫を行うこと」、と示されています。各園や学校において、これらをすでに積極的に作成、活用されているところもあると思います。

このうち、個別の指導計画には、長期目標と短期目標が設定されることが一般的ですが、初めて作成に当たられる先生方にとっては、この目標設定が頭を悩ませることの一つかもしれません。この 2 つはその達成期間が異なるだけではありません。1 年スパンとすることが多い長期目標は、そのままでは具体的な手立てに結びつかず、その達成のためにどんなことが必要となるのか、さらに分解することができます。この分解されたためあてが学期や数か月スパンの短期目標といえます。短期目標は、より具体的で行動型であることがポイント。具体的な手立てを立てやすくし、客観的で正確な評価ができるようにするためにも、とても大切です。(参考: 「特別支援教育 Q&A」ジヤース教育新社)

(文責 長谷川 裕美)

### 教育相談班 9月の予定

#### 〈ふれあいルーム〉

10日(金)～11日(土)

妙高宿泊体験(妙高青少年自然の家)

13日(月) 代休

22日(水) ソフィアセンター

#### 〈学校訪問〉

10日(金) 9:20～ 鏡が沖中学校

#### 〈カウンセリングルーム〉

3日(金) 18:30～20:00

いろいろ体験グループ〈SST〉

(中学生第2グループ)

#### 〈その他の予定〉

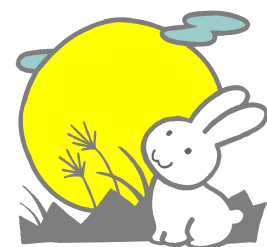
3日(金) 就学指導委員会 園巡回訪問(小鳩幼稚園)

8日(水) 就学相談(元気館)

13日(月) 適応指導教室合同研修会(県立教育センター)

14日(火) 上越教育大学大学院生視察実習

27日(月) 第1回発達障害にかかる校内事例検討会(高柳中学校区)



平成22年9月27日(月)

〒945-0833 柏崎市若葉町2-31

TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

# 心の窓 No.133

## ふれあいルームから

～収穫の喜びと夏野菜を味わう～



ふれあいルームでは、春の苗植えから子どもたちが自分で選んだ夏野菜を畑で育てていました。夏休み前も暑い日が多く、子どもたちは水やりや草むしりにめげそうになりながらも...ふれあいタイムの時間を少しずつ使いながら夏野菜を育ててきました。夏休みに入ってから畑の野菜たちは、ぐんぐんと元気いっぱいになっていました。

8月5日(木)、ふれあいルームのみんなが集まり調理実習を行いました。畑の夏野菜を収穫して、剣野コミュニティセンターで“夏野菜のピザ”を作りました。収穫は、トマトにパプリカ、枝豆、と大収穫。子どもたちは「これは、チョコちゃん(ミニトマトの品種)だね。」「いっぱいありますね~。」など、喜んでいました。調理実習では、ピザの他にもトマトのマリネと茹でた枝豆も一緒に作りました。ピザは、1枚1枚の大きさも色合いも違い色鮮やかな仕上がりになりました。子どもたちは、自分たちが育てた夏野菜をお腹いっぱい食べることができて大満足の様子でした。



☆大収穫☆

暑い夏休みのひと時、子どもたちは自分たちで育てた野菜の“収穫する喜び”と“美味しさを味わう嬉しさ”をふれあいルームのみんなで共有する経験ができたのではないかと思います。(文責 ふれあいルーム 松井 理納)

☆☆

## カウンセリングルームから

～「気になる行動」への効果的な関わり方～

前期「いろいろ体験グループ」が終了いたしました。これは、発達障害特性のあるお子さんを対象とした少人数によるソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施です。月1回の開催ですが、実に頼もしい変化が見られます。中学生グループでは、「発言が苦手なお子さんが自主的に挙手し発表、他児はその声がどんなに小さくても最後まで聞き拍手を送る」「グループに分かれた課題では、各自が得意なことを役割分担し、声をかけながら一緒に取り組む」など、仲間がいるからこそ培えるスキルが獲得されており、安心できる仲間との交流の中では、意欲的な取り組みが見られます。

個人の行動修正については、関わる側のコツがあります。どの子にもある、注目欲求を如何に活用す



るかがポイントです。お子さんの行動を3つに区分します。好ましい増やしたい行動、好ましくない減らしたい行動、危険な行動、許しがたい行動です。「挨拶ができる」などの については、褒めるなど肯定的注目を与えます。 については、無視して待つ褒めるという方法です。行動を無視するのであってその子を見無視するわけではありません。 については、警告し事前に本人やクラス内で決めたペナルティーで対応します。センターのSSTでは、ポイントシールを剥がします。関わる大人は、離席など問題行動が起きたときに、声がけ、つまり「注意」をしがちです。これは、子どもにとっては否定的注目となり、更に繰り返す、叱られるという悪循環になります。身につけたい望ましい行動は、チャンスを見逃さず大いに肯定的注目（褒める、認める、関心を示すなど）をしたいものです。授業開始のときに、「 さんの姿勢が素晴らしいです。」と、好ましい場面のおかげでこそ承認すると、子どもは意識して取り組むように徐々に変化します。

子どもの問題については、本人の努力ではなく、周囲の大人や環境からの働きかけによる相互作用により改善を図りたいものです。  
(文責 カウンセリングルーム 本間 良子)

### ＜自閉症教育における家庭との連携～般化 (Generalization) ～＞

自閉症教育において、「般化」の視点は大変重要です。般化の問題があるために、学校や家庭での成果が別の状況で反映されづらく、そのことが教師や保護者の自己不全感、対立につながってしまうこともあります。

般化には、「刺激般化（特定の状況下で身に付いた行動が、他の状況でも現れること。）」と「反応般化（特定の状況下で身に付いた行動そのものの頻度や強度が上がること。）」があり、学校と家庭との連携では、刺激般化に注目します。学校で身に付いた行動が家庭で、家庭で身に付いた行動が学校で現れるかに注目する必要がありますし、そのためには、家庭での様子やニーズの把握が大切になるでしょう。

脱いだ衣服の後始末が家庭でもできているでしょうか。教室でお金の学習をすることが、家の近くの店での買い物に活用できているでしょうか。適切な手がかりの提示や構造化等、計画的な支援が必要ですね。

(参考：「明日から使える自閉症教育のポイント」ジアース教育新社)

(文責 長谷川 裕美)

### 教育相談班 10月の予定

#### ＜ふれあいルーム＞

- 1日(金)～5日(火)三者面談
- 7日(木)一学期通級終了日
- 8日(金)～13日(水)学校訪問
- 15日(金)二学期通級開始日
- 21日(木)ソフィアセンター
- 28日(木)陶芸教室

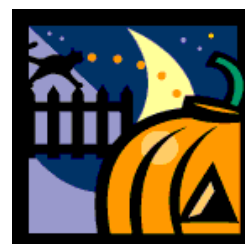
#### ＜カウンセリングルーム＞

いろいろ体験グループ SST

- 8日(金) 16:30～17:30 小学生A・Cグループ
- 15日(金) 16:30～17:30 小学生Bグループ
- 22日(金) 18:30～20:00 中学生第1グループ
- 29日(金) 18:30～20:00 中学生第2グループ

#### ＜その他の予定＞

- 13日(水)就学相談(教育センター)
- 18日(月)第2回発達障害にかかる校内事例検討会(日吉小・槇原小)





平成22年10月25日(月)

〒945-0833 柏崎市若葉町2-31

TEL 0257(23)4591(代表)

FAX 0257(23)4610

# 心の窓 No.134



## ふれあいルームから

### ◇◆◇スポーツでコミュニケーション◇◆◇

今ふれあいルームでは、卓球がちょっとしたブームになっています。今年の通級生は、それぞれ興味のあることは持っているのですが、なかなか共通した趣味や遊びが無く、自由時間は各々で活動ということがほとんどでした。集団活動の苦手な子の多いふれあいルームでは、自由時間は一人で過ごしても良いという事になっているので、グループ活動を強制するようなことはありません。ですが、「集団への適応」を大きな目的の一つとしているルーム指導員にとっては、「一人でいるのもいいけど、誰かと一緒に遊ぶのも楽しい。グループで活動するのも良いものだ。」と通級生が感じてくれるような活動をさせたいという思いをいつも持っています。そこで、あれはどうだろう？これならみんな興味を示すのでは？と手を替え品を替え、調理実習や音楽、スポーツなど色々と企画しますが、単発ではみんな参加しても、継続するとなると上手くいきません。結局、自分からやりたいと思う事でないと続ける意欲も湧いてこないようです。

卓球は久しぶりのヒット！です。勝ち負けを目的としないで、何回ラリーを続けられるか？という目標にすると、お互いに返しやすい球を打ち返して、少し相手のことを考えたり、また目標回数を達成すれば、喜びを共有できたりします。実際、言葉のコミュニケーションでは互いの意に反しやすれ違ってしまう子同士が、仲良く同じ台で打ち合うことが出来ました。言葉以外での会話を通して、少しお互いの距離が縮まったようです。

「鉄は熱い内に打て」といいます。みんなが冷めてしまう前に、このスポーツを通して、出来るだけ沢山の人を巻き込んで、気がついたら集団だったというくらいに、人と関わる事の楽しさを感じてくれたらと思います。



(文責 ふれあいルーム指導員 寺澤 朋法)

## カウンセリングルームから

### ◇◆◇「いろいろ体験グループ」◇◆◇

10月から、後期「いろいろ体験グループ」が始まりました。これは、発達障害あるいはその傾向をもった子どものための、少人数で行われるソーシャルスキルトレーニングのことです。後期も前期と同様に、小学生3グループ(低学年男子・高学年男子・女子)と中学生2グループ(男子女子混合)がそれぞれ月に1回、2月まで開かれます。

「いろいろ体験グループ」には、行動修正やよい行動の習得の他に、もう一つ大事な目的があります。

それは、“人と安心して楽しく交流すること”です。

発達障害特性をもった子どもへの支援では、自信そして周囲の人への信頼感の保持・回復が、より重要とされます。発達障害の特性と周囲との相互作用による悪循環から、子どもが自信や信頼感をもつことができなくなり、人との交流そのものを苦痛なものと捉えて孤立化する、あるいは悪い行動が頻発することが危惧されるためです。そこで、「いろいろ体験グループ」では、子どもが安心して参加できるよう、ルールを視覚化するなどして、どういう行動をするとよいのか、あるいは悪いのかを事前に明確に伝えます。そのルールに沿って、個別に子どものよい行動を取りあげてその都度褒めます。そして子どもは、習得したよい行動を実践することで、お互いにグループの友だちから感謝されたり、助けてもらえたりするプラスの効果をすぐ感じることができます。このような取り組みで、家庭・学校とともに、子どもの自信や周囲への信頼感を高めることを目指しています。

「いろいろ体験グループ」についてのお問い合わせは、カウンセリングルーム（32 - 3397）までお願いします。  
（文責 カウンセリングルーム 栗脇 瞳）

### <あなたのパーソナルテンポは？>

パーソナルテンポとは、個人に固有の生体リズムのことで、話す、歩くといった日常生活行動において、自然に表出される個人固有の速さのこと。これは、古くから研究され、1900年代前半にはすでに多くの実験が行われていたということです。数年前に受講した音楽療法に関する講座の中で、私も実際にこのパーソナルテンポを体感する機会がありました。それは、1分間自分のペースで拍を打つと、何拍になるか、というものでした。約50人の受講者のペースは、20拍から100拍以上まで様々。ゆっくりペースな人、じっくり待てない人…個人によって、自分のペース、心地よいテンポはこんなにも違うものかと驚かされました。

これは、音楽に限ったことではありません。障害をもつお子さんと接する際、そのお子さんのパーソナルテンポを探り、意識して、できるだけそれに合わせた指導をしていくことができれば、より充実した指導、お子さんの成長につながることでしょう。自閉症、多動傾向、重度の肢体不自由等、お子さんの特性によってもそのテンポは様々です。まずは指導者自身もつパーソナルテンポを感じ、意識してみてはいかがでしょうか。意外な発見があるかもしれません。  
（文責 長谷川 裕美）



### <<カウンセリングルーム>>

いろいろ体験グループ SST

- 12日（金）16:30～17:30 小学生A・Cグループ
- 19日（金）16:30～17:30 小学生Bグループ
- 26日（金）18:30～20:00 中学生第1グループ

### <<ふれあいルーム>>

- 11日（木）陶芸教室
- 19日（金）陶芸教室
- 26日（金）保護者会



### <<その他の予定>>

- 1日（月）就学指導委員会 小中部会
- 5日（金）就学指導委員会 小中部会
- 8日（月）就学指導委員会 通級部会
- 9日（火）就学指導委員会 園巡回訪問（柏崎二葉幼稚園）
- 10日（水）就学相談（教育センター）
- 11日（木）就学指導委員会 幼児部会
- 16日（火）心の教室相談員研修
- 18日（木）第2回就学指導委員会

平成22年11月25日(木)

〒945-0833 柏崎市若葉町2-31

TEL 0257(23)4591(代表)

FAX 0257(23)4610

# 心の窓 No.135



## ふれあいルームから

◇◆◇ 頑張っています! 楽しい陶芸体験をするために…。 ◇◆◇

ふれあいルームは、毎年10月～11月にかけて、3回シリーズで上下浜にある石井工房さんで陶芸の体験をしています。

行き帰りは、電車を使用しています。車で移動することが多い通級生にとって、電車で知らないところへ行き、経験のないことを体験することは、一見楽しみなようですが、実は、不安を感じる通級生も多いのです。



この通級生の不安を和らげ、安心して参加できるようにふれあいルームでは次のようなことに気を付けています。

事前の説明(場所・交通手段・講師先生紹介・作り方など)をできるだけ早めに(10日前くらい)おこなっています。

作り方の説明は、作業手順がわかるようにホワイトボードに書いておこなっています。その際、絵や写真を入れ、実際の様子がイメージしやすいように気を付けています。

説明後のホワイトボードは、通級生の目につくところに置き、いつでも作業手順などを確認できるようにしておきます。

このように、早めに説明しておくことで、思い込みから生じる不安を解決することができ、安心して参加できるようです。

こうして、1回目の陶芸教室(型づくり)を終え、通級生は、自分なりに満足した作品を作ることができました。2回目の絵付け作業も楽しんでやれることでしょう。「うまく作ろうとせず、楽しんで作ろう!!」をモットーに小さな芸術家たちは今年も頑張っています。11月末に、陶芸教室の作品をセンター1階に展示する予定です。センターへお越しの際は、ぜひご覧ください。

(文責 ふれあいルーム指導員 池田 恵里子)

## カウンセリングルームから

◇◆◇ 昔の言葉 ◇◆◇

やってみせ、説いて聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かぬ

という昔の言葉があります。ここには見事に子どもたちへの社会性指導のエッセンスが盛り込まれていると思います。まず、やってみせ とはモデリングと言われる要素で、具体的なやり方の「お手本の

提示」を行うことです。その次の 説いて聞かせて は「対処方法」や「やり方」を言葉で説明することです。 させてみて は、つまり「体験」です。体験を通してしか身につけられないのが社会性なのです。そして最後に ほめてやらねばです。これはもっとも重要な「成功」の部分です。これがあって、すべてがつながり、そして身につくのです。 モデル・スキルの提示 体験 成功 という一連のプロセスを社会性指導の場でも、家庭でも、学校でも繰り返し行うことが社会性につまずきのある子どもたちの教育の原理であろうと思っています。



**やってみせ、説いて聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、スキルは育ため**

(参考：小貫悟・名越斉子・三和彩「LD・ADHD へのソーシャルスキルトレーニング」日本文化科学社)

(文責 カウンセリングルーム相談員 長谷川 大)

**<個別指導の必要性>**

通常学級において、個別に指導することが必要な子どもとは、

- ① 極度の感覚過敏や精神的不安から教室にいることができない子
- ② 衝動的な行動があり、学級集団の中で常にトラブルを起こしてしまう子
- ③ 学習の遅れが顕著で、授業に全くついていけない子

等が考えられます。しかし、本人の障害や不適應の程度、環境、学校体制等様々な要因があり、すぐに個別指導が必要か、あるいは可能かについては個々のケースによって異なります。すぐに個別指導をするのではなく、落ち着いた学級作りや環境調整、集団内でのルールの明示とスモールステップでの評価、保護者の受容を促し適正就学を図ること等で改善されていくことも考えられます。

このような子どもたちに共通するのは、失敗経験の蓄積で、自尊感情が極端に低下している点です。どのような指導形態であれ、それ以上子どもたちに失敗させないこと、意図的に成功経験に導いて、自尊感情を高めることが大切です。具体的には、例えば、失敗する前に分かりやすい手がかりを与えたり、課題の難易度や分量を調整したりすることです。そのようにして成功体験を積むことで、自信を回復し、少しずつ学級集団に適應できるようになるかもしれません。個別指導とは、学級集団というステージに自信をもって立てるようにするためのものなのです。(参考：「特別支援教育 Q&A」ジアース教育新社)

(文責 長谷川 裕美)



**<<ふれあいルーム>>**

- 10日(金) スケート教室
- 22日(水) 冬休み前通級終了日

**<<カウンセリングルーム>>**

いろいろ体験グループ SST

- 3日(金) 18:30~20:00 中学生第2グループ
- 10日(金) 16:30~17:30 小学生A・Cグループ
- 17日(金) 16:30~17:30 小学生Bグループ
- 20日(金) 18:30~20:00 中学生第1グループ
- 22日(水) 18:30~20:00 中学生第2グループ

**<<その他の予定>>**

- 3日(金) 子ども虐待防止研修会(柏崎エネルギーホール)
- 8日(水) 就学相談(教育センター)
- 17日(金) 第3回発達障害にかかる校内事例検討会(比角小)



# 心の窓 No.136

平成22年12月21日(火)  
〒945-0833 柏崎市若葉町2-31  
TEL 0257(23)4591(代表)  
FAX 0257(23)4610

## ふれあいルームから

### 集団活動から育まれるもの

ふれあいルームの通級生は、“マイプランタイム”と“ふれあいタイム”の2つの時間を過ごしています。“マイプランタイム”は、自分に合った学習に取り組む時間として設定しています。そして、“ふれあいタイム”では通級生同士の交流活動を中心とした時間があります。

最近では、“ふれあいタイム”の過ごし方が少しずつ変わってきました。これまでは、個々人や数人での活動が主だったのですが、通級生全員が集まって遊ぶ姿が見られるようになってきています。鬼ごっこやだるまさんがころんだ、トランプ、ジグソーパズル、など・・・。“みんなで活動しよう”という気持ちが生じてきたことに加えて、“まず、やってみる”ことの大切さに気づき始めています。中には、集団活動が苦手と感じたり、初めてすることに抵抗を感じたりする通級生もいます。それでも、少しずつではありますが様々な集団活動にチャレンジするようになっていきます。



ある日、通級生みんなで缶けりをする事になりました。最初は、通級生の中には「やらない」と言った子もいましたが、“やってみて感じること”や“誘われたことを受け入れる大切さ”を伝えると、勇気を出してみんなと一緒に参加する姿がみられました。ふれあいタイムが終わると、通級生の誰もが笑っています。そして、「今日は、楽しかった。初めてやることもいいな。」「また、みんなでやりましょう!」との声が自然と出てきました。その日から、みんなで遊ぶことを誘ったり、みんなでできる遊びを話し合ったりしています。そのためか、集団活動の時間や活動のバリエーションが増えてきました。

通級生にとって、新しいことにチャレンジすること、集団活動の楽しさや喜びに気づくこと、その1つ1つが心の成長に繋がっています。また、ほんの小さな一歩かもしれませんが、再登校に繋がっていく大切な体験なのだと思います。

(文責 ふれあいルーム指導員 松井 理納)

## カウンセリングルームから

### 問題を理解するために～人と環境の相互作用

人は必ず何らかの環境に取り囲まれており、その環境と相互作用しながら生活しています。

環境とは、家族や学校(勉強、部活、友人、進路など)、地域社会、または制度や住環境などさまざま

まな要素を含みます。人と環境の関係は互いに影響し合うものであり、両者が上手く折り合っていない場合は、「問題」を呈しやすい状態にあるといわれています。

カウンセリングルームでは、子どもの問題を、この人と環境の交互作用に着目しながら幅広い視点で取り組むことを心がけています。子ども自身の努力や改善のみではなく、周りの環境とどのような関係にあるのかを認識し、負の関係の状況改善は重要な支援となります。特に保護者の変化は子どもに対し影響を与えることとなり、問題状況改善のカギとなります。

相談に来られる保護者の中には、自責や悲しみや怒りや無力感など計り知れない苦悩を抱えている方がいらっしやいます。困難に直面したとき、人は誰もが、なかなか解決行動に移せるものではありません。如何にその苦悩を受けとめ、可能性を引き出すか、保護者自身の回復が相談援助の重要な役割の一つと考えています。

解決は相談者自身によって構築されるものであり、支援とは誰もが持つ本来の力を発揮できるように支えることと考えます。問題を抱える子どもや保護者にとって、安心や喜びなどの良い影響、効果的な影響を提供できる環境の一つでありたいと思います。

(参考：山下英三郎「相談援助」学苑社)

(文責 カウンセリングルーム相談員 本間 良子)

### ＜保護者の気持ち～家庭や地域でのストレス＞

母親が主に子どもの養育に携わっているが、子育てに悩んでいたりと、障害の疑いをもっていたりしても、家族の協力や理解が得られない、といった場合が多く見られます。当市の就学相談においても、そのようなケースを耳にすることがあります。「小さい頃は自分もそうだった。」「大きくなれば変わる。」「しつげが悪い。」等と父親や祖父母等から言われることがあるとのこと。また、地域での理解がなされずに孤立してしまう場合や、他の兄弟姉妹への影響を心配して、特別支援学級在籍や個別指導を受け入れられない場合等も見受けられます。支援者側から見れば、特別な教育的支援の必要性を認めない保護者、発達障害の診断を受けていても「治る」という意識でいる保護者、保育園・幼稚園や学校の指導対応の不十分さばかりを訴える保護者、と映ることもあるでしょう。子どもの状態像の捉えに温度差を感じ、じれったさを感じることもあるでしょう。

しかし、家庭や地域でのストレスは想像以上に大きいもの。実はそれらを表面に出すことができず、相談できる場所や人もなく、母親が一人で苦しんでいる状況があるのかもしれない。支援者側として、少し違った角度から一歩踏み込んで保護者の状況や気持ちを探り、お互いに誤解することなく、よりよい信頼関係や協力体制を構築していきたいですね。

(参考：「特別支援教育時代の保護者サポート」ジアース教育新社)

(文責 長谷川 裕美)



#### ＜ふれあいルーム＞

- 11日(火) 通級開始日
- 21日(金) スケート教室
- 25日(火) ソフィアセンター
- 27日(木) ヨガ体験

#### ＜カウンセリングルーム＞

いろいろ体験グループ SST

- 14日(金) 16:30～17:30 小学生A・Cグループ
- 21日(金) 16:30～17:30 小学生Bグループ
- 28日(金) 18:30～20:00 中学生第1グループ

#### ＜その他の予定＞

- 12日(水) 就学相談(教育センター)

